

氏名

枕草子

(

)

↑筆者名を漢字で書こう

春はあけぼの 。やうやう白くなりゆく山ぎは ( )、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる 。

夏は夜 。月のころはさらなり。やみもなほ、蛍の多く飛びちがひたる 。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行く ( )もをかし。雨など ( ) 降る ( ) もをかし。

秋は夕暮れ 。夕日のさして山の端 ( )いと近うなりたるに、鳥 の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐ ( ) さへあはれなり。まいて雁などの つらねたるが、いと小さく見ゆる ( ) はいとをかし。日 ( ) 入りはてて、風の音、虫の音など ( )、はたいふべきにあらず。

冬はつとめて 。雪の降りたる ( ) はいふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など ( ) 急ぎおこして、炭 ( ) もて渡る ( ) もいとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も白き灰がちになりてわろし。